

京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”に打ち上がった大型の死んだイシサンゴ

久保田 信¹・内田 紘臣²

A large dead hermatypic scleractinian corals (Cnidaria, Anthozoa, Hexacorallia, Scleractinia) washed ashore in the coasts of “Kitahama beach” of the Seto Marine Biological Laboratory, Wakayama Prefecture, Japan

Shin Kubota¹ and Hiro'omi Uchida²

¹ 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所 (〒649-2211 和歌山県白浜町 459)

² 元・串本海中公園センター (〒649-3514 和歌山県串本町有田 1157)

過去、約 70 年間 (1931 年から 2005 年まで)、田辺湾周辺海域からイシサンゴ類 (非造礁性イシサンゴ類を除く) が約 120 種記録され、和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所周辺 (番所崎、“北浜”、“南浜”) で打ち上げられた種類については、9 科 19 属 38 種が記録されている (久保田ほか, 2008)。

上記の報告以降も打ち上げサンゴ類の継続調査を続行しているが、調査区域では珍しくとりわけ大きな 2 群体が打ち上がった。最初に発見した 1 群体は 2008 年 8 月に“北浜”に打ち上がったので (図 1)、陸に引き上げて構内に展示したところ、採取直後に精査する前に盗難にあい、同定ができなくなった。

もう 1 群体は、“北浜”で砂中に埋もれていたが、2010 年 2 月に一部が初めてその姿を現わし (図 2)、2011 年 7 月に台風 12 号の荒波で打ち上げられた (直線距離で 12.5 m 陸側へ移動: 図 3)。種の査定は属どまりだが、報告する。

この群体の大きさは、最大の長径が 80 cm、短径が 44 cm で、ほぼ楕円体である。最初の群



図 1. 2008 年 8 月に“北浜”に初めて打ち上がった大型の死んだイシサンゴ

体と同じく両手で持ち上げられないほどの重さであった。分類学上の位置は、以下の通りである。

Class Anthozoa 花虫綱

Subclass Hexacorallia 六放サンゴ亜綱

Order Scleractinia イシサンゴ目

Family Faviidae キクメイシ科

トゲキクメイシ属 *Cyphastrea* の一種



図2. 2010年2月に“北浜”に埋もれながらも一部が現れた大型のトゲキクメイシ属 *Cyphastrea* の一種



図3. 図2の状態から台風12号により2011年7月30日に群体全部が“北浜”に打ち上げられた死んだ大型のトゲキクメイシ属 *Cyphastrea* の一種

“北浜”へのトゲキクメイシ属 *Cyphastrea* の打上は、これまでの4種、すなわち *Cyphastrea chalcidicum* コトゲキクメイシ、*C. japonica*

ニホントゲキクメイシ、*C. microphthalma* トゲキクメイシ、*C. serailia* フカトゲキクメイシが報告されているが(久保田ほか, 2008)、この内のどの種であれ、今回のような大型の群体の打ち上げは初めてのことである。しかしながら、本属のこのような大型の群体は、山本泰司氏によると、番所崎周辺の特別なタイドプールにも生きた群体がいるとのことなので、今後も大型の群体が打ち上がる可能性がある。

本群体は化石ではないと推察されるが、どのように打ち上がったか、以下のように推察した。死亡した、あるいは生きた群体が、台風時に波の力で基盤から剥がされ、潮間帯まで運ばれ、砂に埋もれた。

謝辞

トゲキクメイシ属に関する貴重な生態情報をご教示下さった京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所の山本泰司技術職員に深謝致します。

引用文献

久保田 信・深見裕伸・内田紘臣. 2008. 和歌山県田辺湾沿岸海域で1931年から2007年までに記録された非造礁性イシサンゴ類(刺胞動物門, 花虫綱, 六放サンゴ亜綱, イシサンゴ目)およびサンゴモドキ目(刺胞動物門, ヒドロ虫綱)の目録. 瀬戸臨海実験所年報, 21: 30-33.